

# ロボット・テクノロジー 関連株ファンド (年1回決算型) -ロボテック (年1回) -

## 運用報告書 (全体版) 第7期

(決算日 2022年9月13日)

(作成対象期間 2021年9月14日~2022年9月13日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先 (コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00~17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2016年2月8日~2025年9月12日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサIM・グローバル・ロボット関連株ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用) の受益証券 ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

## 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
3期末(2018年9月13日)	16,656	0	9.6	14,328	10.1	－	99.3	18,912
4期末(2019年9月13日)	16,714	0	0.3	14,603	1.9	－	99.3	14,917
5期末(2020年9月14日)	21,446	0	28.3	15,747	7.8	－	99.2	13,015
6期末(2021年9月13日)	30,189	0	40.8	21,659	37.5	－	99.1	15,627
7期末(2022年9月13日)	27,933	0	△ 7.5	24,551	13.4	－	99.0	15,034

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World 指数（配当込み、円換算）は、MSCI Inc.（「MSCI」）の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

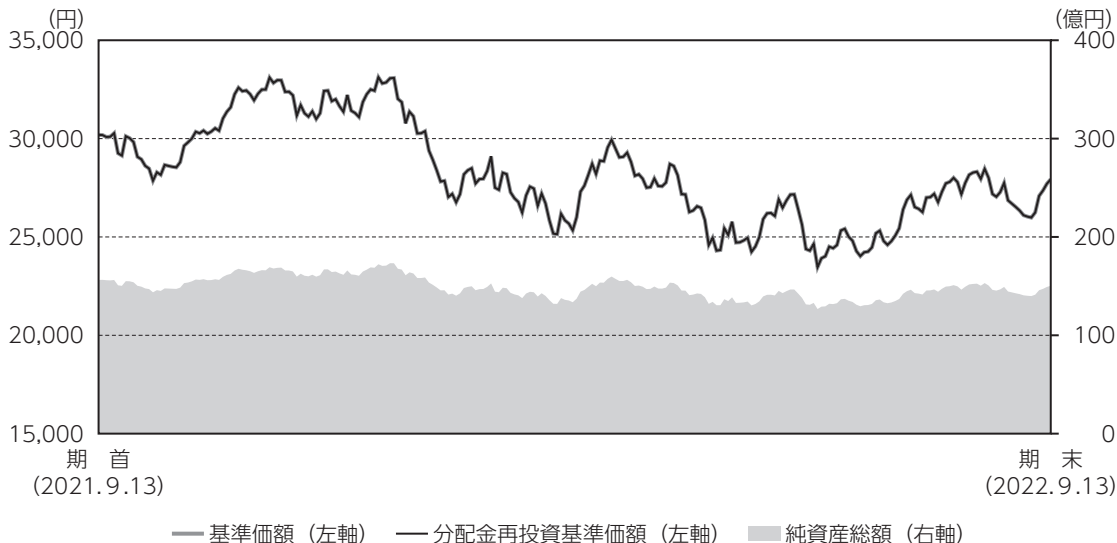
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：30,189円

期末：27,933円（分配金0円）

騰落率：△7.5%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、円安の進行はプラス要因となりましたが、当ファンドの主要投資対象となるテクノロジー系銘柄を中心に株式市場が低迷したことがマイナス要因となり、下落しました。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World指数 (配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2021年 9月13日	円 30,189	% -	21,659	% -	% -	% 99.1
9 月末	28,949	△ 4.1	21,373	△ 1.3	-	98.8
10月末	31,023	2.8	22,729	4.9	-	99.4
11月末	31,702	5.0	22,512	3.9	-	98.9
12月末	32,857	8.8	23,351	7.8	-	98.2
2022年 1 月末	27,173	△10.0	21,867	1.0	-	98.8
2 月末	27,557	△ 8.7	21,714	0.3	-	99.2
3 月末	29,494	△ 2.3	23,809	9.9	-	98.7
4 月末	26,347	△12.7	22,769	5.1	-	98.7
5 月末	26,201	△13.2	22,833	5.4	-	98.5
6 月末	24,805	△17.8	22,411	3.5	-	99.0
7 月末	27,021	△10.5	23,090	6.6	-	99.3
8 月末	26,523	△12.1	23,316	7.6	-	98.9
(期末) 2022年 9月13日	27,933	△ 7.5	24,551	13.4	-	99.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2021.9.14~2022.9.13)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は、2021年末にかけて上昇しましたが、その後は下落しました。

グローバル株式市況は、当作成期首より2021年9月末にかけて、米国の量的金融緩和の早期縮小観測や連邦政府の債務上限問題などから、軟調に推移しました。10月に入ると、米国の債務上限問題の一時棚上げや良好な企業決算の発表を受けて上昇しました。その後も、物価の上昇加速による早期利上げ観測や、新型コロナウイルスの新変異株への警戒感などで下落する局面はあったものの、多くの良好な経済指標の発表が支えとなり、年末にかけて高値圏で推移しました。2022年に入ると、F R B（米国連邦準備制度理事会）による金融引き締め懸念で金利が上昇したことや、ロシアによるウクライナ侵攻で地政学リスクが顕在化したことを受け、株価は3月半ばにかけて下落しましたが、F R Bの利上げ決定後は一時的に反発しました。4月から6月にかけては、インフレ率の予想以上の上昇を受けてF R Bが利上げを加速するとの思惑が強まり、景気の先行き懸念が台頭したことで、株価は下落しました。その後は、資源価格の上昇一服でインフレ懸念が後退し、将来的な利下げ転換期待なども生じたことで8月半ばにかけて上昇しましたが、F R B高官の金融引き締めに積極的な発言などを受け、株価は反落しました。

### ■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

米ドル円相場は上昇（円安）しました。

米ドル円相場は、当作成期首より、米国の利上げ観測の高まりや日米金融政策の方向性の違いを要因として、上昇しました。2022年に入ってから、3月にF R B（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見通しを大幅に引き上げたのに対し、日銀は指値オペを行い長期金利上昇の抑制を図るなど、日米の金融政策の相違がより明確となって、円安米ドル高が大きく進行しました。4月に入ってから、米国金利が上昇したことなどから、さらに米ドルは上昇しました。その後は、米国景気への懸念などからリスク回避姿勢が強まり米ドルは下落しましたが、6月に米国で大幅な利上げが行われたことなどから、米ドルは再度上昇しました。7月には、米国金利が低下に転じると日米金利差の縮小が意識され、円が買い戻されたことで円高米ドル安となりました。8月は、米国金利の上昇により日米金利差が再度拡大したことなどから、円安米ドル高が進行しました。

ユーロ円相場は上昇しました。

ユーロ円相場は、当作成期首より2022年3月にかけて、景気回復期待や利上げ観測の高まりなどは上昇要因となった一方で、新型コロナウイルスの新変異株であるオミクロン株の感染拡大やウクライナ情勢の緊迫化などが下落要因となり、おおむね横ばいで推移しました。3月から6月にかけては、E C B（欧州中央銀行）の早期利上げ観測が高まった一方で日銀は引き続き金融緩和姿勢を維持したことで、日欧の金融政策の相違が意識され、対円で上昇しました。その後は、市場の利上げ織り込みが高まったことはユーロ高要因となりましたが、欧州委員会が加盟国に対しガス使用量の削減を求めたことなどを背景に景気後退懸念が強まったこともあり、一進一退での推移となりました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

グローバル経済は、徐々にコロナウイルスの影響から立ち直り本格的な回復局面へと向かう中、引き続き、ヘルスケア、自動車、テクノロジー、物流など幅広い分野でロボット関連技術の導入が加速すると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで、中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2021.9.14~2022.9.13)

### ■当ファンド

当ファンドは、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネーストック・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）を高位に組み入れました。

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは、「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コム、キーエンスのような大型株からニューベイシブやシリコン・ラボラトリーズなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資しました。

当作成期は、ノルウェーの自動倉庫システムを開発するオートストア、米国の糖尿病患者向けインスリンポンプを製造するタンデム・ダイアベティス・ケアや電気自動車大手テスラを新規に組み入れました。また、2022年1月には市場が下落した局面を捉えて半導体のウルフスピード、3Dセンサーを提

供するルメンタム・ホールディングスなど、多くの組入銘柄の買増しを行いました。顧客の多くが政府関連機関から資金調達しているため、マクロ経済環境が弱含む中において安全性が高い顧客基盤を有していると考えられる米国のソフトウェア企業のベントレー・システムズや、株価が魅力的な水準となったロボット用精密減速機メーカーのナブテスコなどの買増しも行いました。一方で、アップルやテキサス・インスツルメンツなど年初来で株価が比較的底堅い推移だった組入銘柄を一部売却しました。

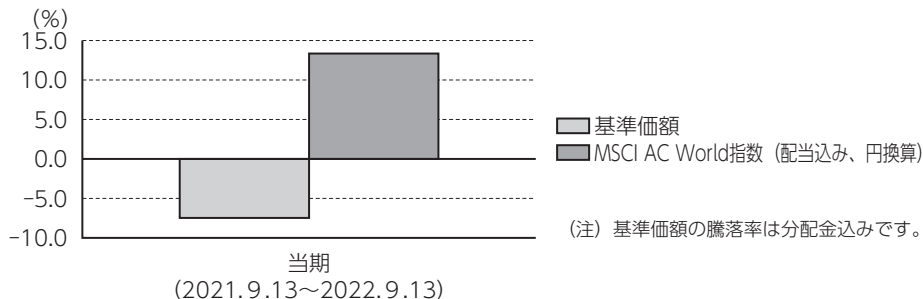
### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期は、信託財産の成長を考慮し、収益分配を見送らせていただきました。  
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項 目	当 期	
	2021年9月14日 ～2022年9月13日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	17,932

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

グローバル経済は徐々にコロナウイルスの影響から立ち直り、本格的な回復局面へと向かう中、引き続き、ヘルスケア、自動車、テクノロジー、物流など幅広い分野でロボット関連技術の導入が加速すると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。



## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2021.9.14~2022.9.13)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	349円	1.237%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は28,196円です。
（投 信 会 社）	(109)	(0.385)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(233)	(0.825)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(8)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0.008	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(2)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	351	1.246	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

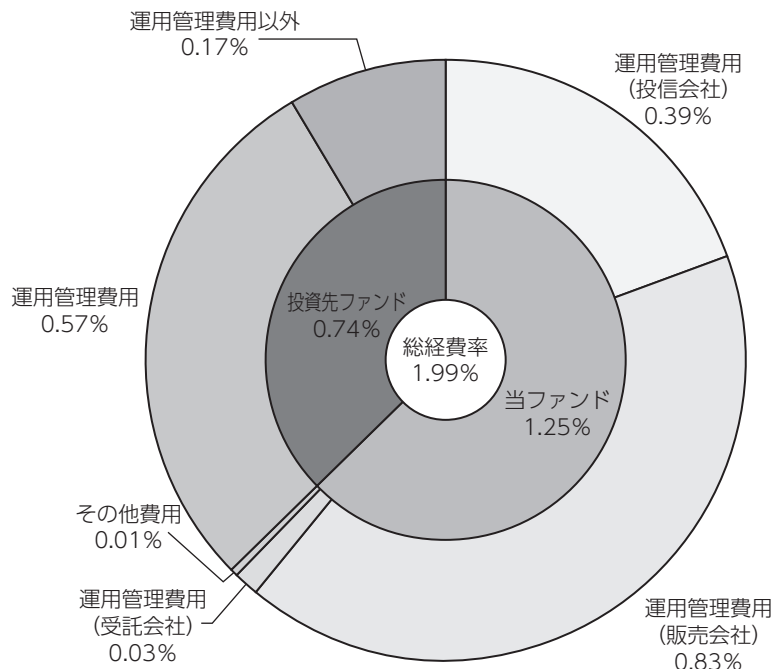
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

## ■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.99%です。



総経費率 (①+②+③)	1.99%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況  
投資信託受益証券

(2021年9月14日から2022年9月13日まで)

国	内	買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
		千□	千円	千□	千円
	アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	263,093.729	727,000	119,986.932	333,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券	千□	千円	%
アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	5,754,859.898	14,885,520	99.0

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千□	千□	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	100	100	100

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年9月13日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	14,885,520	98.3
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	100	0.0
コール・ローン等、その他	254,372	1.7
投資信託財産総額	15,139,993	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年9月13日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	15,139,993,697円
コール・ローン等	254,372,447
投資信託受益証券(評価額)	14,885,520,612
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	100,638
(B) 負債	105,640,852
未払解約金	16,615,789
未払信託報酬	88,432,525
その他未払費用	592,538
(C) 純資産総額(A - B)	15,034,352,845
元本	5,382,358,772
次期繰越損益金	9,651,994,073
(D) 受益権総口数	5,382,358,772□
1万口当り基準価額(C / D)	27,933円

\* 期首における元本額は5,176,500,120円、当作成期間中における追加設定元本額は1,118,355,420円、同解約元本額は912,496,768円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は27,933円です。

■損益の状況

当期 自2021年9月14日 至2022年9月13日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 55,588円
受取利息	4,652
支払利息	△ 60,240
(B) 有価証券売買損益	△ 867,668,586
売買益	173,054,040
売買損	△1,040,722,626
(C) 信託報酬等	△ 185,641,597
(D) 当期繰越損益金(A + B + C)	△1,053,365,771
(E) 前期繰越損益金	5,213,401,094
(F) 追加信託差損益金	5,491,958,750
(配当等相当額)	( 2,904,492,942)
(売買損益相当額)	( 2,587,465,808)
(G) 合計(D + E + F)	9,651,994,073
次期繰越損益金(G)	9,651,994,073
追加信託差損益金	5,491,958,750
(配当等相当額)	( 2,904,492,942)
(売買損益相当額)	( 2,587,465,808)
分配準備積立金	5,213,450,597
繰越損益金	△1,053,415,274

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	4,438,648,568
(d) 分配準備積立金	5,213,450,597
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	9,652,099,165
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	9,652,099,165
(h) 受益権総口数	5,382,358,772口

**<補足情報>**

当ファンド（ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボテック（年1回）－）が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2021年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2022年9月13日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

**■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄**

2021年9月14日～2022年9月13日における主要な売買銘柄はありません。

**■組入資産明細表**

2022年9月13日現在、有価証券等の組み入れはありません。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## 運用報告書 第12期 (決算日 2021年12月9日)

(作成対象期間 2020年12月10日～2021年12月9日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

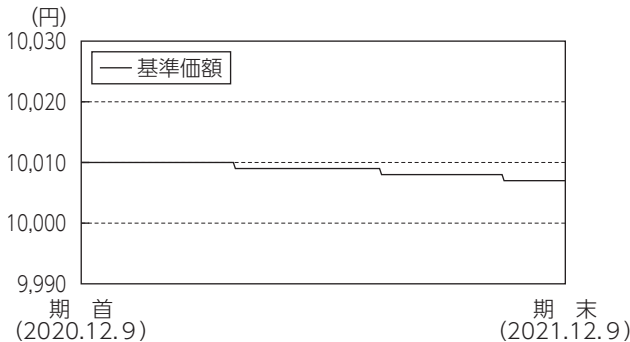
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2020年12月9日	円	%	%
12月末	10,010	0.0	-
2021年1月末	10,010	0.0	-
2月末	10,010	0.0	-
3月末	10,010	0.0	-
4月末	10,009	△0.0	-
5月末	10,009	△0.0	-
6月末	10,009	△0.0	-
7月末	10,008	△0.0	-
8月末	10,008	△0.0	-
9月末	10,008	△0.0	-
10月末	10,007	△0.0	-
11月末	10,007	△0.0	-
(期末)2021年12月9日	10,007	△0.0	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,010円 期末：10,007円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	0 (0)
合 計	0

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。  
 (注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2021年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 147,987,988	% 100.0
投資信託財産総額	147,987,988	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2021年12月9日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>147,987,988,484円</b>
コール・ローン等	147,987,988,484
<b>(B) 負債</b>	<b>210,000,000</b>
未払解約金	210,000,000
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>147,777,988,484</b>
元本	147,676,216,454
次期繰越損益金	101,772,030
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>147,676,216,454口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	10,007円

\* 期首における元本額は88,319,921,795円、当作成期間中における追加設定元本額は176,557,677,368円、同解約元本額は117,201,382,709円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

日本株ロング・ショート戦略パレットファンド (適格機関投資家専用)	266,761,115円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボトテック	947,268円
ダイワ/ミレニアセット・インド株式ファンド -インドの匠	29,910,270円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり)	998円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジなし)	998円
US短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型)	102,434円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボトテック (為替ヘッジあり)	39,849円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型)	3,985円
-ロボトテック (年1回) - (為替ヘッジあり)	
iFreeレバレッジ S&P500	8,293,797,395円
iFreeレバレッジ NASDAQ100	70,959,132,903円
クリーンテック株式ファンド (資産成長型)	998,802円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボトテック (毎月決算/予想分配金提示型)	999円
世界インフラ戦略ファンド (為替ヘッジなし/毎月分配型)	1,000円
世界インフラ戦略ファンド (為替ヘッジなし/資産成長型)	499,501円
ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス	5,345,339,466円
ダイワ上場投信-日経平均ダブルインバース・インデックス	6,483,785,045円
ダイワ上場投信-TOP1Xレバレッジ(2倍) 指数	1,334,794,630円
ダイワ上場投信-TOP1Xダブルインバース(-2倍) 指数	936,360,631円
ダイワ上場投信-日経平均インバース・インデックス	6,676,062,567円
ダイワ上場投信-TOP1Xインバース(-1倍) 指数	3,084,973,807円
ダイワ上場投信-JPX日経400レバレッジ・インデックス	574,295,634円
ダイワ上場投信-JPX日経400インバース・インデックス	861,497,868円
ダイワ上場投信-JPX日経400ダブルインバース・インデックス	104,920,073円
ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-07	997円
ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-10	997円
先進国トータルリターン戦略ファンド (リスクリミット/適格機関投資家専用)	6,988,339,549円
ダイワ日本株式ベア・ファンド (適格機関投資家専用)	101,154,451円
ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ -SITレバ	301,448,680円
ブルベア・マネー・ポートフォリオ6	16,464,882,107円
ブル3倍日本株ポートフォリオ6	17,685,532,691円
ベア2倍日本株ポートフォリオ6	1,058,922,067円
ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ	89,553,240円
ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ	2,938,475円
通貨選択型ダイワ/ミレニアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 豪ドル・コース (毎月分配型)	595,106円
通貨選択型ダイワ/ミレニアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)	987,373円
通貨選択型ダイワ/ミレニアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 通貨セレクト・コース (毎月分配型)	494,581円
ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	9,957円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジあり)	997円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジなし)	997円
ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジあり)	997円
ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジなし)	997円
ダイワ/ミレニアセット亜細亜株式ファンド	9,958,176円
通貨選択型ダイワ/ミレニアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 米ドル・コース	10,833円
通貨選択型ダイワ/ミレニアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) ブラジル・リアル・コース	10,788円
通貨選択型ダイワ/ミレニアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 通貨セレクト・コース	12,751円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) -ロボトテック (年1回) -	100,588円

ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり (毎月分配型)	399,083円
ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし (毎月分配型)	99,771円
通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコース (毎月分配型)	399,083円
通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース (毎月分配型)	99,771円
ダイワ/ミレニアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド (為替ヘッジあり)	1,091,429円
ダイワ/ミレニアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド (為替ヘッジなし)	315,004円
ダイワ/ミレニアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド	10,009,811円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) -ジャパン・トリプルリターンズ- 日本円・コース (毎月分配型)	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) -ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース (毎月分配型)	99,691円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) -ジャパン・トリプルリターンズ- ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) -ジャパン・トリプルリターンズ- 米ドル・コース (毎月分配型)	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) -ジャパン・トリプルリターンズ- 通貨セレクト・コース (毎月分配型)	15,402円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド -イェールアイII- 予想分配金提示型 日本円・コース	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド -イェールアイII- 予想分配金提示型 豪ドル・コース	200,861円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド -イェールアイII- 予想分配金提示型 ブラジル・リアル・コース	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド -イェールアイII- 予想分配金提示型 米ドル・コース	1,999,177円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド -イェールアイII- 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース	505,900円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,007円です。

■損益の状況

当期 自2020年12月10日 至2021年12月9日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 31,130,963円</b>
受取利息	469,134
支払利息	△ 31,600,097
<b>(B) その他費用</b>	<b>△ 147,839</b>
<b>(C) 当期損益金(A+B)</b>	<b>△ 31,278,802</b>
<b>(D) 前期繰越損益金</b>	<b>90,693,506</b>
<b>(E) 解約差損益金</b>	<b>△106,126,697</b>
<b>(F) 追加信託差損益金</b>	<b>148,484,023</b>
<b>(G) 合計(C+D+E+F)</b>	<b>101,772,030</b>
次期繰越損益金(G)	101,772,030

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。  
 (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。



■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	約10年（2025年9月11日まで）	
運用方針	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>主として、マザーファンドの受益証券に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</li> <li>実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</li> </ol>	
マザーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> <li>日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。</li> <li>投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</li> <li>選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</li> </ol> </li> <li>株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</li> <li>運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。</li> <li>外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</li> </ol>	
組入制限	当ファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
配分方針	毎決算時に原則として以下の方針に基づき配分を行います。	
	①配分対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。	
	②配分金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては配分を行わないこともあります。将来の配分金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。	
③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。		

# アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

## 運用報告書（全体版）

第13期（決算日 2022年8月15日）

### 受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」は、このたび第13期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階  
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》  
電話番号：03-5447-3160  
受付時間：9：00～17：00(土日祭日を除く)

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			株 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 分 配 金	期 騰 落 中 率		
	円	円	%	%	百万円
9 期末(2020年 8 月13日)	19,591	0	13.0	97.0	246,840
10 期末(2021年 2 月15日)	25,788	0	31.6	96.9	282,277
11 期末(2021年 8 月13日)	26,697	0	3.5	97.8	282,651
12 期末(2022年 2 月14日)	25,273	0	△ 5.3	97.1	256,918
13 期末(2022年 8 月15日)	26,053	0	3.1	95.5	268,374

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

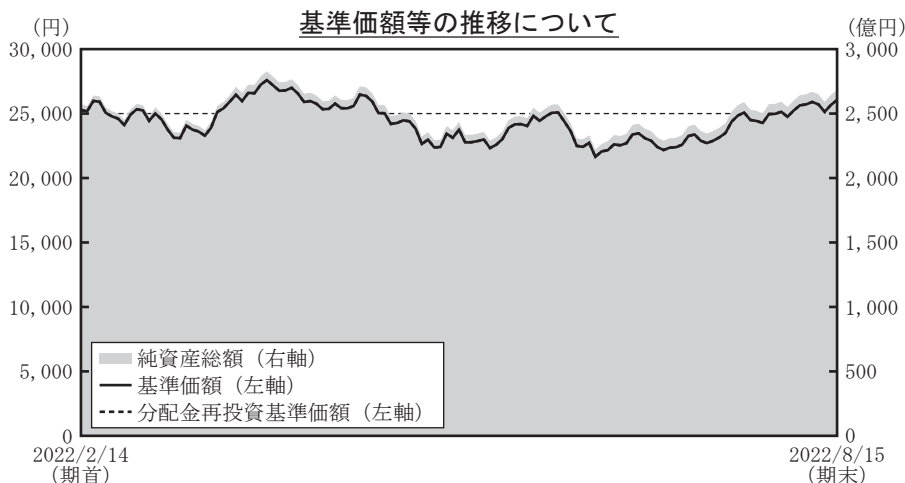
年 月 日	基 準 価 額		株 組 入 比 率
	騰 落 率	率	
(期 首) 2022年 2 月14日	円	%	%
	25,273	—	97.1
2 月末	25,334	0.2	97.4
3 月末	27,186	7.6	95.7
4 月末	24,269	△4.0	95.0
5 月末	24,164	△4.4	96.3
6 月末	22,895	△9.4	95.2
7 月末	24,978	△1.2	96.0
(期 末) 2022年 8 月15日	26,053	3.1	95.5

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2022年2月15日～2022年8月15日）



期 首：25,273円

期 末：26,053円（既払分配金（税込み）：0円）

騰 落 率： 3.1%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当期は、主に米国や欧州の保有銘柄の株価が下落したことがマイナス要因となりましたが、円安がプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、下落しました。期初よりロシアのプーチン大統領がウクライナで「特別軍事作戦」実施を表明したことで、地政学的リスクの高まりとエネルギー価格高騰やインフレ圧力が懸念され、株価は下落しました。4月以降も中国の新型コロナウイルス感染症に対するロックダウン（都市封鎖）や行動制限の強化が世界のサプライチェーン混乱による供給不足を一層深刻にさせ、株式市場を左右する展開になりました。一方で、長引くインフレに対処するため主要中央銀行が金融政策正常化で足並みをそろえ始め、米連邦準備理事会（FRB）が5月に50bps、6月、7月に75bpsの政策金利引き上げを決定し、欧州中央銀行（ECB）が7月後半に開いた理事会で50bpsの政策金利引き上げを決定しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の115円台から期末には132円台となり、ユーロ・円レートは期初の131円台から期末には136円台となりました。

当期は、米ドルは国内景気回復の継続や長期金利の上昇を背景に、また、欧米共にそれぞれ欧州中央銀行（ECB）と米国連邦準備理事会（FRB）が金融政策正常化を掲げたことに対して日銀は金融緩和政策の維持を決定し、双方の金融政策方向性の違いなどから米ドル・ユーロに対して円安が進行しました。

### 【ポートフォリオについて】

#### ○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

#### ○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやマレルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、米国のソフトウェア企業ベントレー・システムズや糖尿病患者向けインスリンポンプを製造するタンデム・ダイアベティス・ケアを新規に組み入れました。また、顧客の多くが政府関連機関から資金調達しているため、マクロ経済環境が弱含む中において安全性が高い顧客基盤を有していると考えられる米国のソフトウェア企業のベントレー・システムズや株価が魅力的な水準となった日本の自動化関連銘柄のナブテスコの買い増しも行いました。一方で、アップルやテキサス・インスツルメンツなど年初来で株価が比較的持ちこたえていた組入銘柄を一部売却しました。

### 【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

### 【分配金】

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

### 分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第13期
		2022年2月15日～2022年8月15日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		16,765

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## ■今後の運用方針

### ○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

### ○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

グローバル経済では、エネルギーおよび原材料価格の高騰などを背景としたインフレ圧力の高まりが、企業業績や家計の圧迫要因となっています。この難しいマクロ経済環境において、一部の企業の株価はすでに大幅下落し、バリュエーションは魅力的な水準になっています。運用チームでは、短期的には先行き不透明感があるものの、当ファンドにおける投資テーマの長期的な成長性は引き続き強固であると考えており、今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

## ■1万口当たりの費用明細（2022年2月15日～2022年8月15日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	70円	0.288%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は24,379円です。
（投信会社）	(67)	(0.274)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(1)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(3)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	1	0.004	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式会社）	(1)	(0.004)	
その他費用	21	0.086	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(21)	(0.085)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	92	0.377	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況（2022年2月15日～2022年8月15日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	2,047,132	4,150,000	772,196	1,650,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2022年2月15日～2022年8月15日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	31,541,735千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	256,672,944千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	0.12

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2022年2月15日～2022年8月15日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2022年2月15日～2022年8月15日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2022年8月15日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	120,892,372	122,167,308	268,303,843

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2022年8月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	268,303,843	99.7
コール・ローン等、その他	891,152	0.3
投資信託財産総額	269,194,995	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（239,319,125千円）の投資信託財産総額（282,201,729千円）に対する比率は、84.8%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=132.97円、1台湾ドル=4.433円、1英ポンド=161.55円、1ノルウェークローネ=13.91円、1ユーロ=136.49円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2022年8月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	269,194,995,801円
コール・ローン等	41,152,041
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(評価額)	268,303,843,760
未 収 入 金	850,000,000
(B) 負 債	820,959,839
未 払 解 約 金	100,000,000
未 払 信 託 報 酬	720,370,684
そ の 他 未 払 費 用	589,155
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	268,374,035,962
元 本	103,008,944,345
次 期 繰 越 損 益 金	165,365,091,617
(D) 受 益 権 総 口 数	103,008,944,345口
1万口当たり基準価額(C/D)	26.053円

1. 期首元本額 101,656,372,802円  
 期中追加設定元本額 2,204,094,686円  
 期中一部解約元本額 851,523,143円  
 2. 1口当たり純資産額 2.6053円

■損益の状況

当期(自 2022年2月15日 至 2022年8月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 233,164円
受 取 利 息	692
支 払 利 息	△ 233,856
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	8,999,277,315
売 買 益	9,005,558,145
売 買 損	△ 6,280,830
(C) 信 託 報 酬 等	△ 720,974,277
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	8,278,069,874
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	107,384,399,724
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	49,702,622,019
(配 当 等 相 当 額)	( 49,867,241,422)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 164,619,403)
(G) 計 (D+E+F)	165,365,091,617
次 期 繰 越 損 益 金(G)	165,365,091,617
追 加 信 託 差 損 益 金	49,702,622,019
(配 当 等 相 当 額)	( 49,872,061,180)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 169,439,161)
分 配 準 備 積 立 金	122,831,164,616
繰 越 損 益 金	△ 7,168,695,018

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換換によるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(726,393,153円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(49,872,061,180円)および分配準備積立金(122,104,771,463円)より分配対象収益は172,703,225,796円(10,000口当たり16,765.85円)ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよび消費者向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> <li>日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。</li> <li>投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</li> <li>選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</li> </ol> </li> <li>株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</li> <li>運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。</li> <li>外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</li> </ol>
株式組入制限	無制限

# アクサ IM・グローバル・ ロボット関連株式マザーファンド

## 運用報告書

第7期（決算日：2022年8月15日）

（計算期間 2021年8月14日～2022年8月15日）



■最近5期の運用実績

決算期	基準 価額	騰落率		株組入比率	純資産額
		期騰	中率		
	円		%	%	百万円
3期末(2018年8月13日)	11,852		17.0	98.6	436,627
4期末(2019年8月13日)	11,155	△	5.9	98.6	298,397
5期末(2020年8月13日)	16,315		46.3	97.0	262,542
6期末(2021年8月13日)	22,368		37.1	97.9	299,321
7期末(2022年8月15日)	21,962	△	1.8	95.5	281,351

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

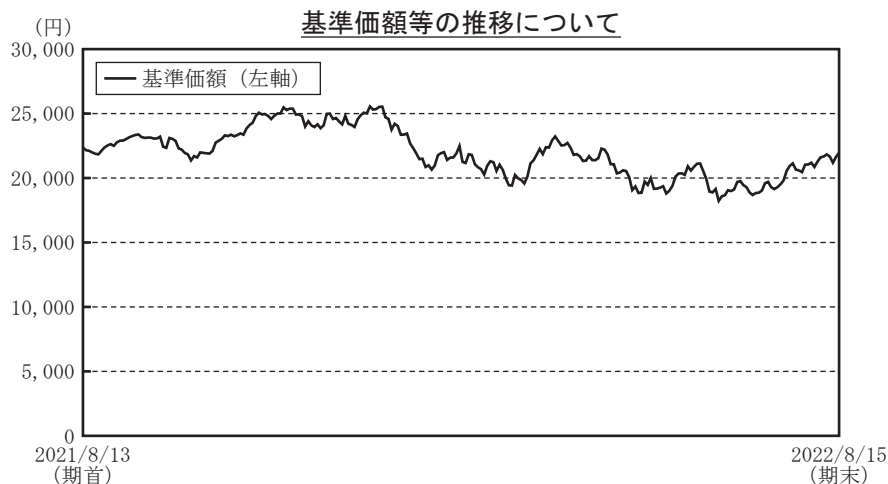
■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基準 価額	騰落率		株組入比率
		騰	落率	
(期首) 2021年8月13日	円 22,368		% —	% 97.9
8月末	22,899		2.4	97.0
9月末	22,203	△	0.7	96.4
10月末	23,845		6.6	97.2
11月末	24,407		9.1	97.4
12月末	25,350		13.3	97.7
2022年1月末	20,976	△	6.2	96.7
2月末	21,302	△	4.8	97.4
3月末	22,879		2.3	95.9
4月末	20,427	△	8.7	95.3
5月末	20,349	△	9.0	96.3
6月末	19,289	△	13.8	95.2
7月末	21,051	△	5.9	95.8
(期末) 2022年8月15日	21,962	△	1.8	95.5

(注1) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2021年8月14日～2022年8月15日）



【基準価額の主な変動要因】

当期は、米国を中心に保有銘柄の株価が全般的に下落したことがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、下落しました。期初は2021年年初からの堅調な流れを受けて株価は上昇しましたが、9月になると各国主要中央銀行によるテーバリング（量的緩和の縮小）や中国の不動産大手恒大集団の経営不振を巡る問題などを背景に下落しました。さらに11月に南アフリカで新たに確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の変異株「オミクロン株」や高まるインフレ懸念から月末にかけて下落しました。12月になると株価は上昇し、年間を通して大幅な上昇を記録して1年を終えました。2022年入ると2月にロシアのプーチン大統領がウクライナで「特別軍事作戦」実施を表明したことで、地政学的リスクの高まりとエネルギー価格高騰やインフレ圧力が懸念され、株価は下落しました。4月以降も中国の新型コロナウイルス感染症に対するロックダウン（都市封鎖）や行動制限の強化が世界のサプライチェーン混乱による供給不足を一層深刻にさせ、株式市場を左右する展開になりました。一方で、長引くインフレに対処するため主要中央銀行が金融政策正常化で足並みをそろえ始め、米連邦準備理事会（FRB）が5月に50bps、6月、7月に75bpsの政策金利引き上げを決定し、欧州中央銀行（ECB）が7月後半に開いた理事会で50bpsの政策金利引き上げを決定しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の110円台から期末には132円台となり、ユーロ・円レートは期初の129円台から期末には136円台となりました。

当期は、米ドルは国内景気回復の継続や長期金利の上昇を背景に、また、欧米共にそれぞれ欧州中央銀行（ECB）と米国連邦準備理事会（FRB）が金融政策正常化を掲げたことに対して日銀は金融緩和政策の維持を決定し、双方の金融政策方向性の違いなどから米ドル・ユーロに対して円安が進行しました。

**【ポートフォリオについて】**

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやマレルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、新規上場したノルウェーのオートストア、イスラエルのコーニット・デジタルや米国の糖尿病患者向けインスリンポンプを製造するタンデム・ダイアベティス・ケアを新規に組み入れました。また、2022年1月には市場が下落した局面を捉えて半導体のウルフスピード、3Dセンサーを提供するルメントム・ホールディングスなど、多くの組入銘柄の買い増しを行いました。顧客の多くが政府関連機関から資金調達しているため、マクロ経済環境が弱含む中において安全性が高い顧客基盤を有していると考えられる米国のソフトウェア企業のベントレー・システムズや株価が魅力的な水準となった日本の自動化関連銘柄のナブテスコの買い増しも行いました。一方で、アップルやテキサス・インスツルメンツなど年初来で株価が比較的持ちこたえていた組入銘柄を一部売却しました。

**【当ファンドのベンチマークとの差異】**

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

**【今後の運用方針】**

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

グローバル経済では、エネルギーおよび原材料価格の高騰などを背景としたインフレ圧力の高まりが、企業業績や家計の圧迫要因となっています。この難しいマクロ経済環境において、一部の企業の株価はすでに大幅下落し、バリュエーションは魅力的な水準になっています。運用チームでは、短期的には先行き不透明感があるものの、当ファンドにおける投資テーマの長期的な成長性は引き続き強固であると考えており、今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2021年8月14日～2022年8月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	4円 ( 4)	0.017% (0.017)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
そ の 他 費 用 (そ の 他)	19 (19)	0.087 (0.087)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合 計	23	0.104	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。期中の平均基準価額は21,938円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2021年8月14日～2022年8月15日)

株 式

			買 付		売 付	
			株 数	金 額	株 数	金 額
国内	日 本	千株	千円	千株	千円	
		607	7,294,173	398	5,445,403	
外 国	ア メ リ カ	百株	千米ドル	百株	千米ドル	
		29,218 (15,869)	322,336 (△23,590)	43,133	478,129	
		台 湾	千台湾ドル	千台湾ドル	千台湾ドル	
		3,750	219,381	3,170	194,731	
		イ ギ リ ス	千英ポンド	千英ポンド	千英ポンド	
3,802	5,915	2,308	5,709			
国	ノ ル ウ ェ ー ユーロ	千ノルウェークローネ	千ノルウェークローネ	千ノルウェークローネ	千ノルウェークローネ	
		57,504	166,380	208	727	
		フ ラ ン ス	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	
		232	3,349	346	5,334	
		ド イ ツ	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	
3,152	24,199	12,604	32,710			
そ の 他	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ		
1,300	608	8,092	5,189			

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ( )内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2021年8月14日～2022年8月15日)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	121,587,027千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	273,797,512千円
(c) 売 買 高 比 率(a)／(b)	0.44

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 (2021年8月14日～2022年8月15日)

買		付		売		付	
銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
KORNIT DIGITAL LTD	281	4,569,526	16,223	PTC INC	521	6,778,495	12,994
ALIGN TECHNOLOGY INC	46	2,994,872	63,815	IPG PHOTONICS CORP	272	3,904,203	14,324
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	563	2,634,904	4,678	TEXAS INSTRUMENTS INC	175	3,879,899	22,111
INTUITIVE SURGICAL INC	67	2,401,659	35,684	ZIMMER BIOMET HOLDINGS INC	186	2,670,005	14,316
COGNEX CORP	273	2,326,455	8,490	QUIDEL CORP	172	2,436,833	14,120
AUTOSTORE HOLDINGS LTD-W/I	5,750	2,251,264	391	ALIGN TECHNOLOGY INC	64	2,371,696	36,566
SIEMENS AG	124	2,195,574	17,656	CADENCE DESIGN SYS INC	107	2,347,419	21,868
ファナック	93	2,178,220	23,296	APPLE INC.	114	2,223,887	19,416
キーエンス	27	1,703,535	61,058	INTUITIVE SURGICAL INC	19	2,218,067	111,214
AUTODESK INC	52	1,667,936	31,798	TERADYNE INC	155	2,170,211	13,959

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等 (2021年8月14日～2022年8月15日)

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況 (2021年8月14日～2022年8月15日)

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細 (2022年8月15日現在)

(1) 国内株式

銘柄	前期末	当期末	
	株数	評価額	
	株数	株数	金額
機械 (31.3%)	千株	千株	千円
ナブテスコ	770	903	3,134,798
SMC	78	76	5,281,340
ダイフク	508	521	4,497,916
電気機器 (68.7%)			
安川電機	858	825	4,070,701
日本電産	327	315	3,129,037
オムロン	431	472	3,726,291
キーエンス	151	161	9,294,516
ファナック	268	327	8,125,362
合計	株数・金額	3,395	3,604
	銘柄数<比率>	8	8
			<14.7%>

(注1) 銘柄欄の( )内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘柄	前期末		当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額 千米ドル	邦貨換算金額 千円	
(アメリカ)	百株	百株			
NXP SEMICONDUCTORS NV	2,547	2,450	45,934	6,107,855	半導体・半導体製造装置
KORNIT DIGITAL LTD	—	2,802	9,879	1,313,637	資本財
ABIOMED INC	823	792	23,253	3,091,979	ヘルスケア機器・サービス
ACCELERATE DIAGNOSTICS INC	6,167	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
ADVANCED MICRO DEVICES	4,876	4,689	47,284	6,287,424	半導体・半導体製造装置
APTIV PLC	3,665	3,525	39,283	5,223,590	自動車・自動車部品
ALIGN TECHNOLOGY INC	179	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
ALPHABET INC-CL C	294	5,296	64,962	8,638,103	メディア・娯楽
AMAZON.COM INC.	208	4,391	63,032	8,381,472	小売
ANSYS INC	1,262	1,214	34,555	4,594,785	ソフトウェア・サービス
APPLE INC.	3,588	2,717	46,763	6,218,123	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
ASPEN TECHNOLOGY INC	2,047	—	—	—	ソフトウェア・サービス
AUTODESK INC	2,151	2,422	56,443	7,505,249	ソフトウェア・サービス
AXONICS MODULATION TECHNOLOG	6,785	6,112	44,244	5,883,241	ヘルスケア機器・サービス
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	—	5,631	23,179	3,082,145	ソフトウェア・サービス
CADENCE DESIGN SYS INC	3,865	3,095	58,447	7,771,778	ソフトウェア・サービス
COGNEX CORP	5,546	7,629	36,787	4,891,578	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
CONMED CORP	2,838	2,729	28,153	3,743,605	ヘルスケア機器・サービス
ALTAIR ENGINEERING INC - A	3,838	4,315	24,342	3,236,821	ソフトウェア・サービス
CREE INC	2,496	—	—	—	半導体・半導体製造装置
DEXCOM INC	1,636	6,013	54,015	7,182,488	ヘルスケア機器・サービス
ASPEN TECHNOLOGY INC	—	772	16,710	2,222,024	ソフトウェア・サービス
GXO LOGISTICS INC	1,880	2,455	12,216	1,624,385	運輸
GLOBUS MEDICAL INC-A	4,679	5,023	33,491	4,453,352	ヘルスケア機器・サービス
IPG PHOTONICS CORP	2,583	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
ILLUMINA INC	739	711	14,823	1,971,090	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INTUITIVE SURGICAL INC	885	2,838	67,671	8,998,289	ヘルスケア機器・サービス
LUMENTUM HOLDINGS INC	2,338	2,548	24,026	3,194,766	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
MICROCHIP TECHNOLOGY INC	2,645	5,519	40,686	5,410,125	半導体・半導体製造装置
NOVANTA INC	2,119	2,038	30,832	4,099,821	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
NVIDIA CORP	3,005	2,551	47,727	6,346,363	半導体・半導体製造装置
ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	8,360	7,677	54,633	7,264,628	半導体・半導体製造装置
PTC INC	5,111	—	—	—	ソフトウェア・サービス
QUALCOMM INC	5,325	5,246	79,377	10,554,782	半導体・半導体製造装置
QUIDEL CORP	1,635	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
SILICON LABORATORIES INC	4,518	4,345	63,812	8,485,116	半導体・半導体製造装置
TANDEM DIABETES CARE INC	—	983	5,297	704,465	ヘルスケア機器・サービス
TERADYNE INC	6,065	5,224	54,510	7,248,323	半導体・半導体製造装置
TESLA, INC.	—	71	6,395	850,361	自動車・自動車部品
TEXAS INSTRUMENTS INC	2,705	1,142	21,176	2,815,865	半導体・半導体製造装置
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	1,035	995	60,071	7,987,676	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TRIMBLE INC	6,820	6,559	47,056	6,257,111	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
VIAVI SOLUTIONS INC	14,618	11,183	17,334	2,305,001	テクノロジー・ハードウェアおよび機器

銘柄	株数	株数	期末		業種等	
			評価額	評価額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
				千米ドル	千円	
(アメリカ)	百株	百株				
WOLFSPEED INC	—	2,628	23,699	3,151,279	半導体・半導体製造装置	
ZIMMER BIOMET HOLDINGS INC	1,767	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
AMBARELLA INC	2,794	2,833	25,996	3,456,820	半導体・半導体製造装置	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	136,459	139,178	1,448,112	192,555,530	
		40	38	—	<68.4%>	
(台湾)				千台湾ドル		
TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING		27,050	27,630	1,428,471	6,332,840	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	27,050	27,630	1,428,471	6,332,840	
		1	1	—	<2.3%>	
(イギリス)				千英ポンド		
OCADO GROUP PLC		14,978	16,657	15,464	2,498,274	食品・生活必需品小売り
AVEVA GROUP PLC		4,809	4,625	11,341	1,832,152	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	19,788	21,282	26,805	4,330,427	
		2	2	—	<1.5%>	
(ノルウェー)				千ノルウェー クローネ		
AUTOSTORE HOLDINGS LTD-W/I		—	57,296	95,111	1,323,000	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	—	57,296	95,111	1,323,000	
		—	1	—	<0.5%>	
(フランス)				千ユーロ		
SCHNEIDER ELECTRIC SE		2,966	2,852	38,551	5,261,915	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	2,966	2,852	38,551	5,261,915	
		1	1	—	<1.9%>	
(ドイツ)				千ユーロ		
SIEMENS AG		3,814	4,611	51,574	7,039,443	資本財
INFINEON TECHNOLOGIES AG		13,208	12,702	34,894	4,762,691	半導体・半導体製造装置
KION GROUP AG		5,187	4,989	21,952	2,996,330	資本財
TEAMVIEWER AG		9,544	—	—	—	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	31,755	22,303	108,421	14,798,465	
		4	3	—	<5.3%>	
(その他)				千ユーロ		
MAREL HF		60,243	53,451	21,487	2,932,835	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	60,243	53,451	21,487	2,932,835	
		1	1	—	<1.0%>	
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	94,965	78,607	168,460	22,993,216	
		6	5	—	<8.2%>	
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	278,263	323,994	—	227,535,016	
		49	47	—	<80.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2022年8月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	268,794,977	95.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	13,406,752	4.8
投 資 信 託 財 産 総 額	282,201,729	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産(239,319,125千円)の投資信託財産総額(282,201,729千円)に対する比率は、84.8%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=132.97円、1台湾ドル=4.433円、1英ポンド=161.55円、1ノルウェークローネ=13.91円、1ユーロ=136.49円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年8月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	284,860,935,609円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	13,351,224,135
株 式(評価額)	268,794,977,540
未 収 入 金	2,663,780,000
未 収 配 当 金	50,953,934
(B) 負 債	3,509,206,000
未 払 金	2,659,206,000
未 払 解 約 金	850,000,000
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	281,351,729,609
元 本	128,106,556,944
次 期 繰 越 損 益 金	153,245,172,665
(D) 受 益 権 総 口 数	128,106,556,944口
1万口当たり基準価額(C/D)	21,962円

1. 期首元本額	133,817,306,053円
期中追加設定元本額	11,563,519,321円
期中一部解約元本額	17,274,268,430円
2. 1口当たりの純資産額	2,1962円
3. 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額	
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	122,167,308,879円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)	5,939,248,065円
期末元本合計	128,106,556,944円

■損益の状況

(2021年8月14日～2022年8月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,513,146,525円
受 取 配 当 金	1,497,364,980
受 取 利 息	17,936,355
支 払 利 息	△ 2,154,810
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 5,315,644,917
売 買 益	56,185,028,133
売 買 損	△ 61,500,673,050
(C) そ の 他 費 用	△ 44,856,431
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 3,847,354,823
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	165,503,778,379
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 22,627,731,570
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	14,216,480,679
(H) 計 (D+E+F+G)	153,245,172,665
次 期 繰 越 損 益 金(H)	153,245,172,665

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。